

市民意向の把握結果（概要）

1 現状把握、ニーズ把握等

1.1 市内の公園等に対する市民意向の把握

1) 調査の種類、対象、目的

今後行うパークマネジメント計画や公園区計画、街路樹管理計画の検討における現状把握や今後の事業等の参考とするため、市民や市民団体等が公園等に対して持っている認識、利活用に対するニーズ等を把握するため、市民向け、子ども・子育て層向け、団体向けの3種類のアンケート調査を実施した。

市民意向把握に係る調査の実施概要

調査の種類	調査対象	調査目的
市民向けアンケート	15歳以上（中学生を除く）宝塚市民全体（無作為・多段抽出によるサンプル調査）	公園や街路樹の機能、あり方に関する市民ニーズや評価等を広く把握
子ども・子育て層向けアンケート	<ul style="list-style-type: none"> 子ども（市内在校の小学2年生・5年生、中学2年生） 子育て層（上記児童・生徒の保護者、保育園1歳児クラス及び4歳児クラスの保護者） 	子育て支援や子どもの成長に役立つ機能、具体的な施設内容等に関する子どもや子育て層市民のニーズや評価等を把握
団体向けアンケート	公園利活用の担い手となることが期待される公園アドプト団体、子育て団体、市民団体、事業者等の地域・市民団体（市の既往資料から対象を選定）	これまでの利活用の状況や今後の利活用の意向や要望、提案等を把握

2) 調査方法

(1) 調査方法

市民向けアンケート、子ども・子育て層向けアンケート、団体向けアンケートは、以下の方法で調査を行った。

市民意向把握に係る調査方法

調査の種類	方法
市民向けアンケート	郵送調査（郵送調査・郵送回収） Webフォームでの回答も可（調査票にQRコード記載）
子ども・子育て層向けアンケート	アンケート依頼用紙を配布し、Webフォームでの回答
団体向けアンケート	郵送調査（郵送調査・郵送回収） Webフォームでの回答も可（調査票にQRコード記載）

(2) 調査期間

原則、下記の24日間を調査期間とした。

令和6年3月18日(月)～4月12日(金)

※子ども・子育て層向けアンケートは4月12日(金)の時点で回収率が低かったため、学校等に再度依頼し、調査期間を4月24日(水)に延長した。

4) 回答状況

(1) 回収状況

各アンケートの回収状況は次の通りである。

各アンケート調査の回収状況

調査の種類	配布枚数	回収数	回収率
市民向けアンケート	2,000	808	40.4%
子ども向けアンケート	5,650	2086	36.9%
子育て層向けアンケート	7,163	1749	24.4%
団体向けアンケート	140	67	47.9%

5) 市民意向における現状と課題認識の概要

(1) 公園の整備や管理について

①公園の整備・管理等

(市民向けアンケート)

- 日常的に公園を利用する市民は3割程度に留まり、「公園を利用しない」等の市民が多い。
- 公園を利用しない理由として、「利用する目的がない」「特に理由はない」等の意見が多い。
- 公園の整備・管理に関しては、幼児が遊べる遊具やグラウンド・広場、休憩場所等の整備状況のほか、おしなべて管理状況については満足等の意見が多い。なお、「ジョギングコースや健康器具」、「水遊び場」、「トイレ・手洗い・水飲み場」、「災害時の施設」は整備・設置されていないとの意見が多い。

(子ども・子育て層向けアンケート)

- 子ども・子育て層は5割以上の方が住まい周辺の公園を日常的に利用している。子どもは「友達と遊びに行く」が多いが、小学2年生は「家族と遊びに行く」との意見も多い。
- 公園の利用内容として、「遊具で遊ぶ」「広場で遊ぶ」「ボールで遊ぶ」との意見が多い。
- 公園を利用しない理由として、「遊具やベンチ等使いたい施設が十分でない」「トイレがない」「狭い」「特に理由はない」等の意見が多い。
- 公園の整備・管理に関しては、「遊具の少なさ」を不満とする意見が多く、他には「ゴミがたくさん落ちている」「トイレが汚い又ははない」「日陰が少ない又ははない」「雑草が多い」との意見も比較的多い。

(団体向けアンケート)

- 8割以上の団体が公園を利活用したことがあり、3割以上の団体が日常的に公園を利用している。利活用の内容としては、清掃、花やみどりの手入れ、子どもの外遊び、散歩等が多い。
- 公園を利用しない理由として、「その他」「特に利用はない」等の意見が多い。

②今後の公園のあり方に関する意向

(市民向けアンケート)

- 公園に期待する役割として、子どもの遊び場、健康づくりの場等の機能のほか、災害時の避難場所やみどりの保全等の存在価値の発揮を期待する意見が多い。
- 公園の特徴づけ（機能設定）やローカルルール、民間活力の導入による既存公園の有効活用に係る方策は、いずれも肯定的な意見が多いが、その他意見ではローカルルールの公平な検討や行政主導の民活導入等の付帯意見も示されている。
- なお、公園の特徴づけにおいては、公園に期待する役割やローカルルールの導入とあわせ、地域の特性やニーズを踏まえた特色ある公園づくりを進めることが重要であることがうかがえる。

（子ども・子育て層向けアンケート）

- 住まい周辺にどのような公園があればいいかについて、「遊具のある公園」「広い広場がある公園」「ボール遊び」「スポーツができる公園」を望む意見が多い。
- 公園に欲しい施設として、「アスレチック遊具」「ボール遊びができる広場やグラウンド」「トイレ」を望む意見が多い。子どもは「ぶらんこ」を望む意見も多かった。
- ローカルルールについては肯定的な意見が多かった。

（団体向けアンケート）

- 団体からは、今後の公園の利活用の意向が8割以上と高く、「園庭代わりや保育の一環」、「イベント」、「憩いの場」、「ボランティア活動の場」での利用意向がある。利活用を促進するには、管理水準の向上、施設の充実、利活用に向けた運営面の整えが望まれている。
- 利活用の条件として、安全性や防犯性、清潔な公園が求められている。

③狭小公園の扱い

- 狭小公園は、一般的な公園よりも利用頻度は低く、利用者は限られている。このことを背景に、「使われていない」「使い勝手が悪い」等の否定的な認識をもつ市民が少なくなく、統廃合や広場としての活用など課題の改善を求める意見は、回答者の半数近くにのぼる。
- ただし、狭くても地域の貴重なオープンスペースであり、継続的な活用を望む市民も一定数存在し、幼児用の遊び場など公園の特性に対応した活用を図るなど、地域ニーズを踏まえた検討が重要である。

(2) 街路樹の整備・管理について

- 街路樹について、「量、質ともに十分」という認識の市民が多く、街路樹の多面的な現状についても肯定的な認識をもつ市民が多い。ただし、「木の根で段差ができています」等の交通支障に関する課題認識のほか、落ち葉・花びらの散乱や毛虫の発生等の認識をもつ市民も少なくない。
- 街路樹の今後のあり方として、「道路の安全性が保てない場合、伐採すべき、中低木に植え替えるべき」等との意見が多く、「伐採する路線等については地域の意見を聞くべき」との意見も多い。特に、街路樹のある道路にお住まいが面している方は「伐採する路線等については地域の意見を聞くべき」という意見が多い。道路の安全性を保てない場合は地域の意見を聞き、伐採・植替えを検討することが重要となる。

- また、「厳しい財政状況においても財源を確保して、剪定等を実施し、樹形を整えるべき」という意見も多い為、道路の安全性を保てない場合等を除き、樹形を意識した剪定が求められている。
- 街路樹についての市民意向は交通支障等の課題改善への関心が比較的強いことがうかがえる。なお、街路樹のある道路にお住まいが面している方とそうではない方の間で、街路樹に対する認識や評価等についての大きな違いは見受けられなかった。

(3) 市民協働の取組

(公園の管理について)

- 公園、街路樹の管理に係る市民協働に、現状参加しているのは市民の1割に過ぎない。参加されていない市民の今後の参加意向は総じて低く、参加意向の低さに関わる理由からも、市民協働への参加促進を図ることが容易ではないことがうかがえる。
- なお、参加したい取組には、清掃や除草のほか、花壇の管理や草花の植付などがあり、みどりに親しむ活動を軸に参加促進を図る方策も考えられる。

(街路樹の管理について)

- 公園同様、街路樹の管理に係る市民協働に現状参加しているのは市民の1割に満たない。参加されていない市民の今後の参加意向は総じて低く、参加意向の低さに関わる理由からも、市民協働への参加促進を図ることが容易ではないことがうかがえる。ただし、街路樹のある道路に面している方の今後の参加意向は面していないが近くにある、近くにない方より多く、他の方より街路樹の管理に関心があることがうかがえる。
- 参加したい取組には、除草、水やり、草花の植付などがあつたが、落葉清掃が多く、気軽な清掃活動の参加促進を図る方策も考えられる。